

令和7年度第1回文京区立中学校部活動地域展開に係る合同部活動検討ワーキング・グループ 記録の概要

日時：令和7年4月25日(金)14時30分から16時00分まで

場所：オンライン

○文京区立中学校部活動地域展開に係る合同部活動検討ワーキング・グループについて

【事務局からの説明】

- ・委員の任期は1年。委員長は齊藤校長（文京区立音羽中学校校長）。
- ・今回を含めて計5回実施予定。

○文京区立中学校の部活動の現状について

（1）部活動の地域連携・地域移行に向けたアンケートの結果概要

【事務局からの説明】

- ・区立小学校第5・6学年児童及び区立中学校第1・2学年の生徒を対象に、令和6年1月19日から1月31日までの間に実施した。
- ・「部活動に入る目的について」は男女ともに「体力・技術を向上させるため」「友達と楽しく活動するため」が上位を占めている（小中共通）。
- ・中学生の回答で大きな特徴は「そもそも休日の活動はしたくない」と回答した割合が他の回答よりも高い割合であること。

（2）文京区立中学校部活動一覧

【事務局からの説明】

- ・運動部の顧問は全体で112名。その内、専門的な指導ができる顧問は52名（46.4%）。
- ・文化部の顧問は全体で77名。その内、専門的な指導ができる顧問は29名（37.7%）。

○部活動の地域展開の方向性

（1）国の方針の確認

（2）「文京区立中学校部活動地域移行実施計画2026（素案）」

①4回教育委員会定例会報告事項

【事務局からの説明】

- ・4月11日に教育委員会定例会が開催され、「文京区立中学校部活動地域移行実施計画2026（素案）」について説明を行った。
- ・教育委員からは、合同部活動は教員の負担軽減につながるようにしてほしい、「勝ちたい」「楽しくやりたい」など活動の方向性を含め生徒の思いを大切にしてほしい、性加害がないように指導者の育成をしっかりとやってほしい、理念だけにならず具体的に取り組んでほしい、区のリソースを有効的に活用してほしいなどの意見があった。

②「文京区立中学校部活動地域移行実施計画2026（素案）」に対する意見

【事務局からの説明】

- ・PTA会長、青少年委員、地域コーディネーターが集まる会合にて、実施計画2026の説明と意見交換を行った。
- ・生徒のニーズを確認し、選択肢を提供する取り組みは評価できる、生徒にとって選択肢があった方がよいという意見があった。
- ・シーズン制など新しい形式の導入が生徒に新鮮さを提供することができることについて、前期後期で違う種目に参加できるような仕組みがあると生徒の選択肢がより広がるのではないかとという声上がり、それを支持する声もあった。
- ・勝ちを目指す生徒への対応が不透明で、取り組みに偏りが生じる可能性があるという声や、「もっとやりたい」と考える生徒と教員がないがしろにされているのではないかとという意見があった。
- ・また、地域コーディネーター連絡会では、外部指導者や社会教育への移行が教育としての意義を損なう懸念があるといった地域移行を不安視する声もあった。
- ・児童・生徒とも意見交換を行ったところ、「いろいろな種目をやってみたい」といった意見や「1つの種目に専念した方がよい」という意見もあった。
- ・新たな種目としてスケートボードとスポーツクライミングをやってみたいという声が多く、また自校にない種目をやりたい、やりたかったという声もあった。

【主な意見等】

- ・バドミントン部はすでに区内4校が集まり、月1回程度、各校の顧問が持ち回りで合同部活動を実施しており、50人程度が参加している。部活動指導員・補助員がいることもあり、無理なくやれている。
- ・所属するチームが2つあると、どちらで大会に出るのかという問題がよくある。チームスポーツと個人競技の違いや、団体に勝ちたいのか個人で勝ちたいのかという子供たちのニーズもくみ取るべき。
- ・地域の方は中体連の専門員にはなれないので、地域移行後の運営面が不安。
- ・ソフトテニス部は年に1回、地域の方のお力を借りながら合同練習会を行っているが、都とのつながりや外部の仕事については懸念がある。
- ・地域移行によって、今頑張っている子供たちが離れていってしまうのではと心配している。
- ・硬式テニス部では、現在の外部指導員は土日他仕事をしている方も多く合同練習は難しい。
- ・他の団体が学校の施設を借りて活動している中に、子供たちが参加していく形もよいと思う。
- ・ダンス部では地域のイベントに参加することも多いので、土日の練習が無くなると練習量が足りなくなってしまうのではないかと懸念している。
- ・地域移行後のSNS上の問題や個人情報の管理、緊急時の保護者の連絡に懸念がある。
- ・指導者の質が低下するのでは。学校で管理している今でも不安に思うときがある。
- ・卓球部では指導してくださっている地域の方と子供たちで良い関係を築けており、新しい価値を感じている。一方で、今まで築き上げてきた関係が途絶えてしまうのは残念。
- ・勝つことがゴールになっている子供たちもおそらくたくさんいる。
- ・今は顧問の先生経由で子供たちの情報を知ったうえで指導できるが、地域移行後に背景などを知らない子供たち40人を1人で見るのは不安だという指導員の声も聞いた。

- ・サッカー部はすでに合同部活動を実施している。顧問の教員は専門性がないので助かっている。スケジュールの打合せについても、委託事業者が調整してくれているのを生徒におろす形になっているので、うまく回っている。
- ・平日と土日で別のチームだと混乱がある。部活動とクラブチームの両方に所属している場合、どちらのチームで大会に出るかという問題が今も発生している。
- ・他校とトラブルがあったときの対応など、生活指導に関する情報共有に不安。一方で、土日ずっと勤務は大変なので、助かっている面もある。
- ・剣道部では合同は多い。剣友会の試合を優先して中体連に出ないことは過去にもあった。
- ・地域の指導者は平日に別の仕事をしているので、平日の大会は厳しい。

③休日の合同部活動の実施に向けた児童・生徒アンケートの実施について

- ・令和8年度から実施を予定している休日の部活動の実施に向けて、児童・生徒の「休日の合同部活動」に対する意識の調査を行う。
- ・実施期間は、5月中旬から下旬を予定。

○その他

- ・次回開催日程の確認
- ・今後の予定